

# 第16章 災害・消防・警察・海上保安

1	災 害	365
16-1	令和5年中の台風・大雨等による被害状況	366
16-2	市町村別台風・大雨等による被害状況	366
16-3	年次別台風・大雨等被害状況	367
2	消 防	368
(1)	火災発生状況	
(2)	消 防 現 勢	
16-4	市町村別の火災発生状況	369
16-5	月別火災発生状況	369
16-6	原因別火災発生状況	370
16-7	大火災発生状況（損害額2,000万円以上）	370
16-8	消 防 現 勢	370
3	警 察	371
(1)	交通事故発生状況	
(2)	刑法犯発生状況	
16-9	市町村別交通事故発生状況	372
16-10	刑法犯市町村別発生状況	373
4	海 上 保 安	374
16-11	機動力（巡視船艇等）	374
16-12	法令違反別送致件数	375
16-13	海難の発生状況（海上における事故）	375
16-14	関係団体等	375
16-15	奄美海上保安部が管理する航路標識の市町村別設置状況	376



# 1 災 害

令和5年は、4・5・6月に大雨、6・7月に台風2・6号が奄美地方へ接近し前年を上回る被害が発生した。被害額については、1,400,410千円となり、項目別では、公共土木施設被害が1,133,808千円（被害総額の81.0%）で最も多く、次いで、農林水産被害127,441千円（同9.1%）、農林水産業施設被害108,348千円（同7.7%）となっている。

16-1 令和5年中の台風・大雨等による被害状況 (数値は市町村の報告による)

期 間	台 風 大雨等	人的被害 (人)		住 家 被 害 (棟)					非住家 被 害 (棟)
		死 亡 不 明	負 傷	全 壊	半 壊	一 部 破 損	床 上 浸 水	床 下 浸 水	
5. 4. 19	大 雨	0	0	0	0	0	0	0	0
5. 2. 2	大 雨	0	0	0	0	0	0	0	0
5. 6. 1	台 風 2 号	0	0	0	0	1	0	0	2
5. 6. 19	大 雨	0	0	0	1	0	1	8	0
5. 6. 20	大 雨	0	0	0	0	0	29	98	30
5. 7. 31	台 風 6 号	0	3	0	0	13	3	9	9
5. 10. 8	大 雨	0	0	0	0	0	1	8	0
5. 10. 9	大 津 波	0	0	0	0	0	0	0	0
5. 12. 2	大 津 波	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計		0	3	0	1	14	34	123	41

16-2 市町村別台風・大雨等による被害状況 (数値は市町村の報告による)

資料：大島支庁総務企画課

期間：令和5年1月～令和5年12月

単位：千円

区分 市町村名	人的被害 (人)	農 林 水 産 業 施 設	公 共 土 木 施 設	そ の 他 の 公 共 施 設	農 林 水 産 業 被 害	そ の 他	合 計
奄 美 市	0	71,627	211,900	0	2,753	19,000	305,280
大 和 村	0	183	407,667	0	0	0	407,850
宇 検 村	0	28,300	514,241	0	1,590	0	544,131
瀬 戸 内 町	0	0	0	0	0	0	0
龍 郷 町	0	0	0	0	0	0	0
喜 界 町	0	0	0	0	50,432	0	50,432
徳 之 島 町	0	0	0	0	0	0	0
天 城 町	0	0	0	0	0	0	0
伊 仙 町	0	3,607	0	0	1,046	0	4,653
和 泊 町	1	500	0	0	26,914	10,409	37,823
知 名 町	0	1,031	0	904	29,974	0	31,909
与 論 町	50	3,100	0	500	14,732	0	18,332
合 計	51	108,348	1,133,207	1,404	127,441	29,409	1,400,410

資料：大島支庁総務企画課  
 期間：令和5年1月～令和5年12月

被 害 金 額 (単位：千円)											備 考 被害地域等
農 林 水 産 業 施 設	公 共 土 木 施 設	そ の 他 の 公 共 施 設	農 産 被 害	林 産 被 害	畜 産 被 害	水 産 被 害	商 工 被 害	そ の 他	計		
0	23,276	0	0	0	0	0	0	0	23,276	奄美北部地域	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	奄美南部地域	
529	0	0	5,690	0	0	0	0	0	6,219	奄美群島全域	
0	0	904	298	0	0	0	0	0	1,202	奄美南部地域	
28,300	993,461	0	590	0	0	1,000	0	0	1,023,351	奄美群島全域	
79,519	97,671	500	119,863	0	0	0	0	29,409	326,962	奄美群島全域	
0	19,400	0	0	0	0	0	0	0	19,400	奄美北部地域	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	奄美群島全域	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	奄美群島全域	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,400,410		

16-3 年次別台風・大雨等被害状況 (数値は市町村の報告による)

資料：大島支庁総務企画課  
 期間：各年1月～12月  
 単位：千円

年次	区分	住 家 等	農 林 水 産 業 施 設	公 共 土 木 施 設	そ の 他 の 公 共 施 設	農 林 水 産 業 被 害	そ の 他	合 計
平成	20	—	34,742	100,547	2,000	682	176	138,147
	21	—	26,162	899	6,290	68,897	570	102,818
	22	—	3,114,301	2,995,324	388,800	222,117	1,273,876	7,994,418
	23	—	1,062,056	1,547,635	500,010	2,052,668	766,042	5,928,411
	24	—	1,453,380	2,722,122	604,918	2,339,458	614,400	7,734,276
	25	—	261,886	32,450	74,813	363,302	155,350	887,801
	26	—	15,141	166,968	24,805	785,791	39,995	1,032,700
	27	—	6,108	29,714	4,608	285,675	0	326,105
	28	—	15,707	19,172	0	28,944	0	63,823
	29	—	123,580	86,646	8,932	771,286	26,730	1,017,174
	30	—	681,963	620,697	227,411	2,548,637	180,219	4,258,927
令和	元	—	16,846	128,227	0	2,304	0	147,377
	2	—	26,281	207,922	13,256	387,950	1,300	636,709
	3	—	61,123	0	0	711	0	61,834
	4	—	0	0	0	0	38,497	38,497
	5	—	108,348	1,133,808	1,404	127,441	29,409	1,400,410

(注) 「住家等」については、平成16年度以降、集計されていない。

## 2 消 防

### (1) 火災発生状況

令和4年中の火災発生件数は29件で、前年に比べ29件の減少であり、12.6日に1件の割合で火災が発生したことになる。

市町村別では、天城町が9件（奄美群島全火災の31%）で最も多く、次いで、奄美市が6件、伊仙町・和泊町・与論町が各3件、喜界町が2件、大和村・徳之島町・知名町が各1件の順となっている。

人口（令和4年1月1日住民基本台帳による）1万人当たりの出火件数を表す出火率では、天城町の15.8が最も高く、次いで大和村の7.0、与論町の5.8の順となっている。

火災種別に見ると、「建物」火災が15件（奄美群島全火災の51.7%）で、前年に比べ7件の減少、「林野」火災は0件で、前年に比べ2件の減少、「車両」火災は前年と同じく6件（同20.7%）、「船舶」火災、「航空機」火災は前年と同じく0件、「その他」火災（田畑の野焼き等の火災）が8件（同27.6%）で、前年に比べ20件の減少となっている。

火災による死者は0人で、前年に比べ2人減少である。また、負傷者は前年と同じく4人となっている。

焼損棟数は19棟で前年に比べ13棟の減少、り災世帯数は11世帯で前年に比べ18世帯の減少、り災人員は18人で前年に比べ33人の減少となっている。

損害額は38,865千円で、前年に比べ17,435千円の減少で、火災1件当たり約1,340千円、1日当たり約106千円が灰になったことになる。

損害額2千万円以上の大きな火災は、発生していない。

出火原因では、「排気管」が3件（奄美群島全火災の10.3%）で最も多く、次いで「こんろ」が2件（同6.9%）となっている。

### (2) 消 防 現 勢

消防本部数は令和4年4月1日現在で前年と変わらず3本部となっている。消防職員数については前年と変わらず252人、条例定員に対する充足率は、100%である。

また、消防吏員252人の平均年齢は36.7歳となっている。

消防団数は12団、消防分団数は92分団である。消防団員は、1,448人で前年に比べ12人減少し、平均年齢は43.2条例定員に対する充足率は85.9%となっている。

各消防本部が管理する消防ポンプ自動車、小型動力ポンプ等の消防機械のうち、消防ポンプ自動車の充足率は100%（令和4年4月1日時点）となっており、救急自動車の所有台数は前年と同数で21台となっている。

また、火災鎮圧のため必要不可欠な消防水利については、令和4年4月1日時点で充足率67.6%となっている。

消防ポンプ自動車及び消防水利充足率の県平均は、消防ポンプ自動車が103.8%、消防水利が50.7%であり、消防ポンプ自動車充足率は県平均を下回っているが、消防水利充足率は県平均を上回っている。

16-4 市町村別の火災発生状況

資料：鹿児島県消防保安課  
期間：令和4年1月～12月

市町村名	出火件数							損害額(千円)								
	計	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他	計	建物	林野	車両	船舶	航空機	その他	爆発	
大島地区	奄美市	6	3	-	2	-	-	1	723	261	-	462	-	-	0	-
	大和村	1	1	-	-	-	-	-	3,126	3126	-	-	-	-	-	-
	宇検村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	瀬戸内町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	龍郷町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	喜界町	2	1	-	1	-	-	-	375	162	-	213	-	-	-	-
	計	9	5	-	3	-	-	1	4,224	3,549	-	675	-	-	-	-
徳之島	徳之島町	1	-	-	-	-	-	-	295	-	-	-	-	-	295	-
	天城町	9	6	-	-	-	-	3	17,297	17,053	-	7	-	-	237	-
	伊仙町	3	1	-	1	-	-	5	3,502	2,164	-	180	-	-	1,158	-
	計	13	7	-	1	-	-	5	21,094	19,217	-	187	-	-	1,690	-
沖与論	和泊町	3	2	-	-	-	-	1	760	605	-	-	-	-	155	-
	知名町	1	1	-	-	-	-	-	12,638	12,638	-	-	-	-	-	-
	与論町	3	-	-	2	-	-	1	149	-	-	97	-	-	52	-
	計	7	3	-	2	-	-	2	13,547	13,243	-	97	-	-	207	-
	合計	29	15	0	6	-	-	8	38,865	36,009	-	959	-	-	1,897	-
	令和3年	58	22	2	6	-	-	28	56,300	52,314	-	2,785	-	-	1,201	-
	比較	△29	△7	△7	-	-	-	△20	△17,435	△16,305	-	△1,826	-	-	696	-

市町村名	焼損棟数					り災世帯数				り災人員	死傷者		損害面積		1件当たりの損害額(千円)	
	計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	計	全損	半損	小損		死者	負傷者	建物床面(m <sup>2</sup> )	林野(a)		
大島地区	奄美市	3	1	-	1	1	-	-	1	2	-	1	16	-	121	
	大和村	1	1	-	-	-	1	1	-	2	-	1	127	-	3,126	
	宇検村	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	瀬戸内町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	龍郷町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	喜界町	1	-	-	1	-	1	-	1	2	-	-	1	-	188	
	計	5	2	-	2	1	3	1	2	6	-	2	144	-	469	
徳之島	徳之島町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	295	
	天城町	10	5	-	4	1	6	3	3	7	-	2	441	-	1,922	
	伊仙町	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	90	-	1,167	
	計	11	6	-	4	1	6	3	3	7	-	2	531	-	1,623	
沖与論	和泊町	2	-	-	1	1	1	-	1	1	-	-	1	-	253	
	知名町	1	1	-	-	-	1	1	-	4	-	-	108	-	12,638	
	与論町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	50	
	計	3	1	-	1	1	2	1	1	5	-	-	109	-	1,935	
	合計	19	9	-	7	3	11	5	6	18	-	4	784	-	1,340	
	令和3年	32	9	5	9	9	29	13	3	13	51	2	4	1,165	96	971
	比較	△13	-	△5	△2	△6	△18	△8	△3	△7	△33	△2	-	△381	△96	369

(注) 火災種別が2以上複合する火災は、焼き損害額の大なるものの種別に計上。

16-5 月別火災発生状況

資料：鹿児島県消防保安課  
期間：令和4年1月～12月

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
件数	5	2	3	4	-	-	2	3	1	4	2	3	29
前年件数	11	9	4	7	3	1	4	1	5	4	3	6	58
増減数	△6	△7	△1	△3	△3	△1	△2	2	△4	-	△1	△3	△29

16-6 原因別火災発生状況

資料：鹿児島県消防保安課  
期間：令和4年1月～12月

順位	(3)	-	-	(3)	(3)	-	-	(2)	(3)	(1)	(3)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	たき火	放火の疑い	火入れ	たばこ	電灯電話等の配線	電気機器	配線器具	こんろ	風呂かまど	排気管	マッチ・ライター	ストーブ	焼却炉	放火	電気装置	灯火	溶接機・切断機	その他	不明・調査中	計
件数	1	-	-	1	1	-	1	2	1	3	1	-	-	-	-	-	-	4	14	29
前年件数	4	1	9	1	-	1	1	4	-	-	3	-	-	-	2	1	1	7	23	58
前年順位	(2)	(6)	(1)	(6)	-	(6)	(6)	(2)	-	-	(4)	-	-	-	(5)	(6)	(6)	-	-	-
増減数	△3	△1	△9	-	1	△1	-	△2	1	3	△2	-	-	-	△2	△1	△1	△3	△9	△29

16-7 大火災発生状況（損害額2,000万円以上）

資料：鹿児島県消防保安課  
期間：令和4年1月～12月

出火月日	出火時刻	市町村名	火元の用途	原因	焼損棟数	り災世帯	り災人員	死者	負傷者	焼損床面積(m <sup>2</sup> )	損害額(千円)
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

16-8 消防現勢

資料：鹿児島県消防保安課  
期日：令和4年4月1日

区分 市町村名	消防団(消防本部)		消防団(職員)			消防ポンプ等							消防水利			充足率	
	団本部数	分団数	条数	現員	平均年齢	自消防ポンプ自動車	水そう付自動車	消は防し自動車	小型ポンプ積載車	動力ポンプ積載車	救急自動車	その他	ポンプ自動車充足率	消火栓	防火水そう		その他
奄美市	1	16	452	381	46.0	8	2	-	41	-	-	7	-	464	141	28	-
大和村	1	5	52	47	39.3	1	1	-	10	-	-	1	-	-	28	9	-
宇検村	1	7	92	88	43.4	1	1	-	7	1	-	1	-	6	31	2	-
瀬戸内町	1	6	155	106	48.3	1	1	-	12	22	-	1	-	65	65	4	-
龍郷町	1	4	153	140	42.6	2	2	-	10	-	-	-	-	47	77	5	-
喜界町	1	9	130	109	41.8	1	-	-	-	-	-	1	-	131	127	4	-
大島地区消防組合	1	-	161	160	38.2	2	5	2	1	-	13	11	100	-	-	-	64.7
徳之島町	1	11	161	141	42.0	1	5	-	11	-	-	1	-	29	92	11	-
天城町	1	3	80	75	42.2	1	2	-	-	2	-	1	-	56	59	18	-
伊仙町	1	8	74	68	44.2	1	2	-	1	-	-	1	-	31	52	-	-
徳之島地区消防組合	1	-	49	50	34.2	-	3	-	-	-	4	1	100	-	-	-	76.9
和泊町	1	7	120	101	39.3	2	7	-	2	1	-	2	-	121	80	95	-
知名町	1	13	145	131	38.4	2	7	-	6	1	-	-	-	126	128	4	-
与論町	1	3	72	61	41.9	1	4	-	-	-	-	1	-	64	76	-	-
冲永良部与論地区	1	-	41	42	34.0	-	2	-	-	-	4	3	100	-	-	-	69.3
広域事務組合	(本部3)	-	251	252	36.7	2	10	2	1	-	21	15	100	-	-	-	67.6
計	団12	92	1,686	1,448	43.2	22	34	-	100	27	-	17	-	1,140	956	180	-

(注) 1 消防職員の平均年齢は消防吏員の平均である。  
2 救急自動車は令和4年4月1日時点の数値、ポンプ自動車充足率及び消防水利充足率は、令和4年4月1日時点の数値である。



## 3 警 察

### (1) 交通事故発生状況

令和5年の交通人身事故発生件数は、116件で前年より1件減少した。

交通事故による死者は、4人で、前年より1人減少し、傷者については124人で同数であった。

件数を市町村別にみると、奄美群島で件数の最も多いのは奄美市の45件（全体の38.8%）で、次いで徳之島町の15件（同12.9%）となっている。

また、島別に件数の割合をみると、奄美大島が65件（全体の56.0%）、喜界島が6件（同5.2%）、徳之島が25件（同21.6%）、沖永良部島が18件（同15.5%）、与論島が2件（同1.7%）となっている。

死者は、奄美市2人、伊仙町1人、和泊町1人の合計4人となっている。

### (2) 刑法犯発生状況

令和4年の刑法犯の総認知件数は、263件で前年に比べ9件の増加となっている。

市町村別にみると件数が最も多いのが、奄美市の102件（全体の38.8%）で前年と比べると11件の減少、次いで徳之島町の35件（13.3%）で1件の減少となっている。

罪種別にみると、窃盗犯が138件で全体の52.5%を占めている。

なお、検挙件数は141件となっている。

16-9 市町村別交通事故発生状況

期間：令和5年1月～12月

単位：人，件，台数

区分 市町村名	人口	件数 (人身)	死者	傷者	前年比増減			自動車保有車両数			人口1万人 当たりの 死傷者数
					件数 (人身)	死者	傷者	貨物・乗合・乗用・特種用途 二輪数	軽自動車数	合計	
総数	99,855	116	4	124	-1	-1	0	27,075	59,920	86,995	12.8
奄美大島	56,508	65	2	68	3	-1	4	15,028	29,059	44,087	12.4
奄美市	39,786	45	2	46	9	0	9	10,263	19,941	30,204	12.1
大和村	1,350	0	0	0	0	0	0	474	794	1,268	0.0
宇検村	1,561	1	0	1	0	0	0	505	923	1,428	6.4
瀬戸内町	8,037	6	0	6	-8	-1	-7	2,147	4,000	6,147	7.5
龍郷町	5,774	13	0	15	2	0	2	1,639	3,401	5,040	26.0
喜界島	6,182	6	0	7	0	0	1	1,455	4,332	5,787	11.3
喜界町	6,182	6	0	7	0	0	1	1,455	4,332	5,787	11.3
徳之島	20,743	25	1	24	-14	-1	-20	6,312	15,969	22,281	12.1
徳之島町	9,688	15	0	15	-3	-2	-6	2,703	6,665	9,368	15.5
天城町	5,239	5	0	5	-6	0	-7	1,848	4,498	6,346	9.5
伊仙町	5,816	5	1	4	-5	1	-7	1,761	4,806	6,567	8.6
沖永良部島	11,443	18	1	23	9	1	14	3,330	7,657	10,987	21.0
和泊町	5,963	9	1	12	6	1	9	1,863	3,988	5,851	21.8
知名町	5,480	9	0	11	3	0	5	1,467	3,669	5,136	20.1
与論島	4,979	2	0	2	1	0	1	950	2,903	3,853	4.0
与論町	4,979	2	0	2	1	0	1	950	2,903	3,853	4.0

- (注) 1 人口は令和5年10月1日現在推計人口（県統計課資料）  
 2 件数，死者，傷者は令和5年12月末現在（県警察本部交通企画課）  
 3 車両台数は令和5年3月末現在（第4章69ページ自動車保有車両数より）ただし，不明分，軽二輪は除く。  
 4 奄美大島には，加計呂麻島，請島，与路島を含む。

16-10 刑法犯市町村別発生状況

資料：鹿児島県警察本部刑事企画課  
 期間：令和4年1月～令和4年12月

市区町村	包括罪種		凶悪犯	粗暴犯	窃盗犯	知能犯	風俗犯	その他の 刑法犯	総計	令和3年 の状況
奄美市	認知	0	21	59	3	3	16	102	113	
	検挙	0	16	30	1	1	7	55	83	
大和村	認知	0	0	0	0	0	0	0	2	
	検挙	0	0	0	0	0	0	0	2	
宇検村	認知	0	2	1	0	0	0	3	1	
	検挙	0	2	0	0	0	0	2	1	
瀬戸内町	認知	1	6	9	1	3	7	27	18	
	検挙	1	5	2	1	2	2	13	12	
龍郷町	認知	0	5	9	1	0	1	16	15	
	検挙	0	4	3	0	0	1	8	6	
喜界町	認知	0	4	6	0	0	4	14	7	
	検挙	0	4	4	0	0	1	9	8	
徳之島町	認知	0	9	20	0	0	6	35	36	
	検挙	0	9	13	0	0	1	23	22	
天城町	認知	0	4	5	1	0	4	14	15	
	検挙	0	3	5	0	0	1	9	6	
伊仙町	認知	0	0	6	2	1	0	9	19	
	検挙	0	1	0	0	1	0	2	11	
和泊町	認知	0	2	11	1	0	5	19	10	
	検挙	0	2	2	0	0	1	5	3	
知名町	認知	0	4	7	1	2	2	16	11	
	検挙	0	4	4	1	2	1	12	7	
与論町	認知	0	1	5	1	0	1	8	7	
	検挙	0	1	1	0	0	1	3	4	
総計	認知	1	58	138	11	9	46	263	254	
	検挙	1	51	64	3	6	16	141	165	

(注) 検挙件数については、発生地計上方式をとっている。

包括罪種の内訳

- 凶悪犯……殺人，強盗，放火，強制性交等
- 粗暴犯……暴行・傷害，脅迫，恐喝，凶器準備集合
- 窃盗犯……窃盗
- 知能犯……詐欺，横領，偽造など
- 風俗犯……賭博，わいせつ
- その他の刑法犯……上記以外の刑法犯

## 4 海上保安

海上保安庁の事務所として奄美海上保安部（奄美市）及び古仁屋海上保安署（瀬戸内町）を置き、巡視船艇等4隻の機動力を活用して、奄美群島地域における「安全・安心で美しい海」を守り、未来に引き継いでいくため、海上における各種法令違反の取締り、領海警備、海難救助、海洋環境の保全活動、自然災害対応、離島間の急患搬送、海難防止活動、航路標識の管理等の交通施策などに取り組んでいる。

管轄する奄美群島地域は、南北約220km東西約300kmの広範な海域に及び、何れも外海に点在する島々からなるという地理的な特徴を持っていることから、迅速かつ円滑な業務の遂行のために、各市町村、警察、消防、漁業協同組合等の関係機関と連携を図っている。

令和4年の法令違反の送致件数は、15件であった。過去には大規模な密輸や密航事犯も発生していることから、沿岸域での不審情報の収集や巡視船艇による周辺海域のしょう戒を重点的に展開し、各種法令違反の取締りを強化している。

また、海の事件・事故を認めたときは「海のもしもは118番」の緊急通報用電話番号の活用を推進している。

令和4年の海難の発生状況は、船舶事故が10隻で、前年に比べ1隻減少、人身事故が29名で、前年に比べ3名増加した。海難への対応としては、直接の対応の他、水難救済会との連携した救助活動を、油排出事故等への対応としては奄美群島排出油等防除協議会と協力して防除活動を行っている。

特に、奄美群島排出油等防除協議会は、6つの支部があり、各支部において地域の防除技術の向上を図るため、各種訓練及び講習会を行っている。また、「未来に残そう青い海」をスローガンに海洋環境保全を推進するため小中学生とともに海浜清掃活動や漂着ごみの分類調査等を行っている。

船舶事故を種類別に見ると乗揚が多い。原因別では、操船不適切、見張り不十分などの人的ミスによるものが大半を占めているため、操船者の注意を促すための海難防止講習会等を実施している。特に、管内では漁船及びプレジャーボート等の小型船の海難の割合が高いことから、漁船海難防止については、奄美群島の各漁業協同組合や、漁船を直接訪問し、海難防止啓発を実施するなど、特に力を入れて取り組んでいる。

また、プレジャーボートの海難防止については、海上安全指導員（第十管区海上保安本部長が指定するプレジャーボートやマリレジャー等の事故防止啓発活動を行うボランティアで、奄美群島では主任海上安全指導員1名を含む8名が指定）と協力して取り組んでいる。

人身事故については、マリレジャー中の事故が多く、種類別では、遊泳中やスクーバダイビング中の事故割合が高く、遊泳を安全に行うための地域特性に関する知識不足やスクーバダイビングの知識・技能が不足していることが主な原因となっており、また、群島外からの観光客等による事故が増加している傾向にあることから、観光客等に安全啓発に係る情報提供を早く確実に行うため、各島の観光連盟（協会）、警察、消防、自治体、航空会社等と連携強化を図っているほか、リーフレットやステッカーを宿泊施設、バス、フェリー等、観光客が目につきやすいところへ掲示するなど、効果的な周知啓発に努めている。

名瀬港は特定港であり、奄美海上保安部長は港則法に基づき名瀬港長として、港内における海上工事や行事の許可、危険物荷役の許可等、船舶交通の安全及び港内の整とんを図るための業務を行っている。

船舶交通の安全確保と運行能率の向上を図るために重要な、灯台をはじめとする各種航路標識の管理・運用を行っており、管内で最も歴史の古い曾津高崎灯台（明治29年11月初点）を初めとする灯台27基、導灯5基・指向灯2基・照射灯1基の合計35基となっている。そのうち半数以上は太陽電池化及びLED化されている。

また、航海の安全確保、マリレジャーでの事故の未然防止のために、灯台で観測した風向、風速、気圧などの局地的な気象、海象の状況、海上工事や行事の状況、海上模様が把握できるライブカメラなどの情報を、プレジャーボート、漁船等の船舶運航者やマリレジャー愛好者に対して、「海的安全情報」としてパソコン、スマートフォン用サイトで提供しているほか、24時間体制で海上保安庁が発表する緊急情報等を、事前に登録されたメールアドレスに電子メールで配信するサービスの提供を行っている。

### 16-11 機動力（巡視船艇等）

資料：奄美海上保安部

期日：令和5年10月31日

船名	所属	総トン数	航行区域	就役年月
あまぎ	奄美海上保安部	1320	近海	平成22年3月
かいもん	奄美海上保安部	220	近海	平成16年4月
いそなみ	古仁屋海上保安署	105	近海	平成26年1月
ばるさあ	古仁屋海上保安署	4.7	沿海	平成8月3月

16-12 法令違反別送致件数

資料：奄美海上保安部  
期日：令和5年10月31日  
(件)

	海事関係法令	漁業関係法令	海上環境法令	刑法犯	その他の法令	合計
令和2年	12	1	0	3	1	17
令和3年	15	1	2	2	2	22
令和4年	2	9	1	3	0	15

16-13 海難の発生状況（海上における事故）

資料：奄美海上保安部

(ア) 船舶事故の隻数等の推移

年	項目	事故隻数（隻）	死亡・行方不明者数（人）
令和2年		14	0
令和3年		11	0
令和4年		10	0

(イ) 船舶事故の種類別内訳

(隻)

年	種類	衝突	乗揚	転覆	火災	浸水	機関故障	推進器障害	運航阻害	行方不明	その他	合計
令和2年		2	6	2	0	0	1	2	1	0	0	14
令和3年		0	3	1	0	1	1	0	0	0	5	11
令和4年		0	4	0	0	0	3	3	0	0	0	10

(ウ) 人身事故の人数の推移

(人)

年	項目	事故者数	死亡・行方不明者数
令和2年		22	8
令和3年		26	12
令和4年		29	15

(注) 死亡・行方不明者数は、事故者数の内数

(エ) 人身事故の種類別内訳

(人)

年	船舶乗船中の人身事故					海浜事故				合計
	海中転落	負傷	病気	その他	遊泳中	スノーバダイビング中	磯遊び	釣り中	その他	
令和2年	0	2	3	0	2	4	2	2	9	22
令和3年	2	0	2	0	10	2	1	1	9	26
令和4年	0	0	2	0	7	4	1	1	15	29

16-14 関係団体等

(ア) 奄美群島排出油等防除協議会

資料：奄美海上保安部  
期日：令和5年10月31日

支部名	参加機関団体数	支部名	参加機関団体数
奄美支部	29	瀬戸内支部	24
徳之島支部	17	沖永良部支部	18
与論支部	10	喜界支部	11

(イ) 奄美群島地区スキューバダイビング安全対策協議会

資料：奄美海上保安部  
期日：令和5年10月31日

会長名	事業所名	加入団体数	設立年月
中田留弘	奄美ダイビングセンターとめ	38	平成元年4月

(ウ) 小型船交通安全協議会

資料：奄美海上保安部  
期日：令和5年10月31日

組織の名称	会員数	設立年月日	主な活動海域
奄美地区小型船交通安全協議会	202名	昭和49年12月17日	奄美大島(奄美市名瀬)

(エ) 民間救助組織

資料：鹿児島県水難救済会  
期日：令和5年3月31日

設立年月日	組織の名称	代表者	住所	救助勢力
平成7年1月31日	与論救難所	山元宗	鹿児島県大島郡与論町茶花1418-1	人員 44名
平成9年1月30日	和泊救難所	前登志朗	鹿児島県大島郡和泊町和泊10	人員 29名
平成9年1月30日	知名救難所	今井力夫	鹿児島県大島郡知名町知名307	人員 40名
平成10年7月7日	喜界救難所	隅崎悦男	鹿児島県大島郡喜界町湾1746番地	人員 40名
平成11年8月12日	天城救難所	森田弘光	鹿児島県大島郡天城町平土野2691-1	人員 25名
平成12年11月1日	伊仙救難所	大久保明	鹿児島県大島郡伊仙町伊仙1842	人員 112名
平成13年5月28日	龍郷救難所	竹田泰典	鹿児島県大島郡龍郷町浦110	人員 86名
平成13年12月1日 (平成19年3月19日)	奄美市救難所 住用支所	安田壮平	鹿児島県奄美市住用町大字西仲間111	人員名 1726
平成13年12月27日 (平成19年3月19日)	奄美市救難所 笠利支所	安田壮平	鹿児島県奄美市笠利町大字中金久141	人員名 6555
平成14年1月1日	宇検村救難所	元山公知	鹿児島県大島郡宇検村湯湾915	人員 136名
平成14年3月4日	大和救難所	伊集院幼	鹿児島県大島郡大和村大和浜100	人員 193名
平成14年4月1日 (平成19年3月19日)	奄美市救難所 名瀬支所	安田壮平	鹿児島県奄美市名瀬幸町25-8	人員 74名
平成14年4月1日	瀬戸内救難所	鎌田愛人	鹿児島県大島郡瀬戸内町古仁屋船津23	人員 148名
平成14年7月1日	徳之島町救難所	高岡秀規	鹿児島県大島郡徳之島町亀津7203	人員名 6162

(注) 奄美市救難所各支所の上段の年月日は改組前のもの

16-15 奄美海上保安部が管理する航路標識の市町村別設置状況

資料：奄美海上保安部  
期日：令和5年10月31日  
単位：基

市町村別	区分	灯台	導灯	指向灯	照射灯	計
(奄美大島)		14	1		1	16
奄美市		6	1			7
大和村		1				1
宇検村						
瀬戸内町		6				6
龍郷町		1			1	2
(喜界島)		4				4
喜界町		4				4
(徳之島)		5	1			6
徳之島町		2	1			3
天城町		2				2
伊仙町		1				1
(沖永良部島)		2	2	1		5
和泊町		1	2			3
知名町		1		1		2
(与論島)		2	1	1		4
与論町		2	1	1		4
合計		27	5	2	1	35

(注) 奄美大島には、加計呂麻島、請島、与路島を含む。